

**Q 温泉活用を柱に活性化を**  
**A 周辺施設と連携し対応**

永井 章議員

国道54号活性化アクションプランは、キーワードを「食」「自然」「安心・快適」と定め、町ぐるみの協働で進めるものです。尾道松江線の松江、三次間は24年度に開通が予定されており、交通量の減少や地域経済への影響が懸念されます。

アクションプランの柱に自然資源を活用した取り組みとして、温泉の有効活用方法を探るとあります。町内3カ所と近隣2カ所の温泉に、年間約10万人の入湯客があり、ほとんどが54号を利用しての来町です。今後、戦略プランとして類似する温泉との連携を図る考えは。



加田の湯



山崎町長

免許者の高齢化で捕獲体制の弱体化が予想されます。駆除を目的に、地区単位で免許者を育成配置できる仕組みを検討します。猟友会、関係機関の指導や意見をもとに対処します。

緊急を要する対応として、町でクマ捕獲器の購入を検討します。

イノシシ駆除費は、本年度予定した160頭を大きく上回り、248頭を駆除しており、実績に応じた予算を考えます。広範囲の防護柵や里山整備等、効率的な方法を集落から提案してもらい、国の事業と、町の支援対策を考えます。



頓原ラムネ温泉

**Q 有害鳥獣対策は**  
**A 積極的に対処**

永井議員

今年は、夏の猛暑と鳥獣害により農作物を中心に被害が多発しました。出雲広域農業共済組合では、有害獣侵入防止事業の捕獲檻と罠購入補助制度がありますが、町の独自対策が求められます。狩猟免許者は高齢化し、新規取得者も少なく、今後の農作物被害防止には

狩猟免許者確保が急務と思うが。クマの出没による人身被害があり、県から檻を借用し、子グマ1頭を捕獲しました。町でクマ捕獲器を購入する考えは。イノシシ駆除費を、本年の捕獲実績頭数に増額する考えは。鳥獣被害を未然に防ぐための対策は。

12月定例会

町政を問う

一般質問

**Q 鳥獣害に抜本的対策を**

**A 総合対策を実施する**



長島正一議員

有害鳥獣の被害は農業者の営農意欲の低下を招くだけでなく、耕作放棄地の増加をもたらし、これが更なる被害を招く悪循環を生じさせています。被害防止には地域全体の取り組みを推進することが効果的といわれていますが、近年の高齢化や狩猟者人口の減少に伴い、一集落単位の取り組みに限界を感じており、抜本的対策が必要です。

早急に全町をあげた取り組みの体制を確立すべきで、広域連携による一斉駆除の必要性が考えられるが。

猟友会や中山間地域研究センターの専門員と協力、連携により専門的な情報提供や、罠・檻等の講習会を開催し、これにより自主的な取り組みの体制を構築すべきでは。また、長期的な視点で里山の整備をすることが求められているが、今年の冬から来春まで

**Q 健全財政で**  
**A 5つの重点目標で**

産業振興を

長島議員

全国的に注目を得ている小さな町は、いずれも財政の健全化とともに住み良いまちづくりを目指しており、若者定着を図っています。

今の経済状況を見ながら、どのようにこのまちの将来を考え、財政運営に当たるのか。また、産業振興にどのような投資をするのか。

山崎町長

本町のように財政力の低い自治体は、地方交付税に財政運営が左右されるので常に動向を注視しています。

予算配分は重点施策へ傾斜配分する枠配分方式を導入します。予算編成の過程を公表することで、予算の透明性を明らかにします。



大豆の穫り入れ風景

事業評価シートの導入で総合振興計画の進捗を図ります。単年度収支均衡予算に努め、実質公債費比率が再び上昇しないよう繰上げ償還を行い、健全な財政を目指します。これらを実行することにより、将来を展望したまちづくりを行います。

産業振興は

- ・エコマと園芸作物を振興し、販売対策として直接消費者の元へ届ける仕組みづくり。
- ・鳥獣被害対策として森林整備。
- ・森林セラピーなどの交流事業の促進。
- ・太陽光発電と木質バイオマス導入の検討。
- ・新規就農者の育成と定住の促進。の5つを重点的に考えています。